

SIMI ANNUAL REPORT 2023-2024

2023.07 - 2024.06

「社会的インパクト・マネジメント」の 社会実装により、社会価値創造を促進する

一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ（SIMI）は、日本において事業者、資金提供者・仲介者、行政、中間支援組織・シンクタンク、評価者・研究者など多様なメンバーが連携して、日本全体として「社会的インパクト・マネジメント」を普及させるためのマルチセクター・イニシアチブです。「普及啓発」「知見の高度化」「ラーニング・コミュニティ形成/人材育成」の3つの観点から「社会的インパクト・マネジメント」の普及に取り組んでいます。

VISION

社会的インパクト・マネジメントが実装され、社会課題解決や社会価値創造が行われている社会

MISSION

あらゆる組織の社会的インパクト・マネジメントを促進するとともに、組織や業界、活動分野を越えた参画・協働を加速する共創基盤を提供します。



知見の高度化
実践、研究から生まれたSIMIに関する知見を高度化、可視化し、他の様々な事業や外部組織などが活用可能なアウトプットを創出する。

普及啓発
SIMIの認知拡大や潜在ステークホルダーとの新しい出会いを創出し、ステークホルダーの行動変容に繋げる。

ラーニング・コミュニティ/人材育成
本領域において、これから実践する人など本領域を担う人材を育成するとともに、実践者が相互に学び続ける、信頼関係に基づいたコミュニティを形成する。

※SIM = 社会的インパクト・マネジメント

代表理事から見たSIMI2023年度とこれから | 今田 克司 | SIMI代表理事

インパクト・エコノミーの実装に向けて、世の中は動いています。昨年度は官民協働のインパクト・コンソーシアムが立ち上がり、金融、事業者の双方から、企業セクターの参加が多く見られています。インパクト・ファイナンスの取り組みにおいても、IMM(インパクト測定・マネジメント)の実践の主役となる製品やサービス提供の現場を担う企業との対話が増えてきました。

SIMIでは、インパクトに関するこのような意識や実践の広がりを歓迎するとともに、これを社会全体の取り組みとするための方策について、考えを巡らせています。すなわち、これらの動きに非営利セクターや市民団体、地域の課題解決の実践者の声を入れていくことです。長年社会課題に正面から向き合ってきたこういった人々・団体の参画があって初めて、インパクト・エコノミーは健全な発展を遂げていくことになるのではないのでしょうか。昨年度、このような意識を内部で共有してきたSIMIとして、特に今年度以降、新しい打ち手を作り出していきたいと考えています。

SIMI COMMENTS

2023年度の主な取り組み

設立4年目となる2023年度は、2022年度に開始したSDGインパクト基準研修やインパクト・アナリスト研修を引き続き実施しました。2023年度の活動を通じて、SIMIの活動に参加するステークホルダーは広がりを見せています。

2023. 07

インパクト・アナリスト研修第2期実践編を開催(国際交流基金助成)

社会課題解決や価値創造に向けた意思のある資金提供者を育成するインパクト・アナリスト研修の第2期実践編を実施し、17名が修了。インパクトファイナンスを進める米国リーダーとのネットワークや連携の促進を行うことを目的とした「渡米研修」も実施しました。修了者の増加により、インパクト・アナリストのコミュニティ醸成にも寄与しています。



2024. 05

Social Impact Day2024を開催。1000名超が申込み

本年は、「インパクト・エコノミーが実現する“システム・チェンジ”」をテーマに、初のオンライン / 対面によるハイブリット形式で3日間にわたり開催。インパクトコンソーシアムの設立など、インパクトに関与するステークホルダーの増加する中で、海外からの参加者も多くみられ、国内外での連携の広がりを感じられる機会となりました。



2024. 06

SDGインパクト基準研修を開催

今年度は従来の法人向け(3dayコース、1dayコース)に加え、新たに個人向け(1dayコース)を企画・開発。対面形式で2日程にて開催し、合計21名が受講。主な受講対象者は「SDGインパクト基準を活用したインパクト志向の事業運営を行う人材を育成したい企業・組織、個人」としており、自社へのSDGインパクトの本格導入を検討されたいサステナビリティ部門の担当者を始め、全体像の知見把握をされたい個人の方まで幅広くご参加が可能です。



2023年度 メディア掲載実績

- 2023年12月11日 The Latest Impact Investment Trends in Japan (Asian Impact Management Review Winter Issue '23)
- 2024年4月号 社会的インパクトとはなにか (機関誌「公益法人」Vol.53 No.4)
- 2024年5月号 インパクトマネジメントを理解する (上) (機関誌「公益法人」Vol.53 No.5)
- 2024年6月号 インパクトマネジメントを理解する (下) (機関誌「公益法人」Vol.53 No.6)

Social Impact Day 2024

Social Impact Dayは、社会的インパクト・マネジメントに関する国内外の最新動向を議論する日本最大級のイベントです。今回で8回目を迎えた本イベントは、対面開催ならびにオンライン配信のハイブリッド形式にて開催いたしました。参加者の視座を高めて学びを深めるために、以下のテーマに対し4つのエリアに基づき全23セッションと特別企画2本を実施しました。1000名を超えるお申込みをいただきました。



Social Impact Day 2024 テーマ

”インパクト・エコノミーが実現する”システム・チェンジ”

インパクト・エコノミーを推進する4つのエリア

area 1 新しい資本主義
資本主義のアップデートやオルタナティブ（代替）を考えるためのエリア

area 2 エコシステム
社会課題解決のためのエコシステムの形成、コレクティブ・インパクトを考えるためのエリア

area 3 リーダーシップ
インパクト志向の企業経営、エグゼクティブのリーダーシップを考えるためのエリア

area 4 知見の高度化
グローバルのインパクト・マネジメントの概念や方法論など最新動向について学ぶためのエリア

基調講演①

インパクト会計をめぐるグローバルな潮流と今後

Christian Heller 氏
CEO Value Balancing Alliance e.V.
Vice President BASF SE
Co-chair Sustainable Finance Committee to the Federal Government of Germany

三田 紀之 氏
三菱ケミカルグループ株式会社 執行役員、
チーフサステナビリティオフィサー

Vanina Farber 氏
elea Professor of Social Innovation
and Dean of the IMD EMBA program

基調講演②

チャイルドレンズ投資とは～将来世代を最優先に考える投資フレームワークの紹介

Alexander Rostami 氏
Chief and Founder of UNICEF's
Global Innovative Finance Hub in Helsinki

基調講演③

インパクト投資におけるインパクト・マネジメントの現状と課題～BlueMarkの最新ベンチマークレポートをもとに

Christina Leijonhufvud 氏
BlueMark, CEO

Special Session 1 コレクティブインパクトで目指す新たな資本主義「共助資本主義」の実現

Special Session 2 本質的な社会課題解決を促す「システムチェンジ投資」とは

Special Session 3 パーパス経営と社会的インパクト: 持続可能なビジネスの新たな可能性

Special Session 4 Beyond Impact Investment: インパクトエコノミー実現の2ndステージ～GSG Japan NAB設立10周年に、次の10年戦略を構想する

主催



参加者の声

共助資本主義のセッションがとても面白かったです。お立場の違うお三方が、共助というコンセプトを分かりやすく共有してくれました。また、インドの起業家の話は、インパクトのイメージが大変しやすくなった点で面白いセッションでした。

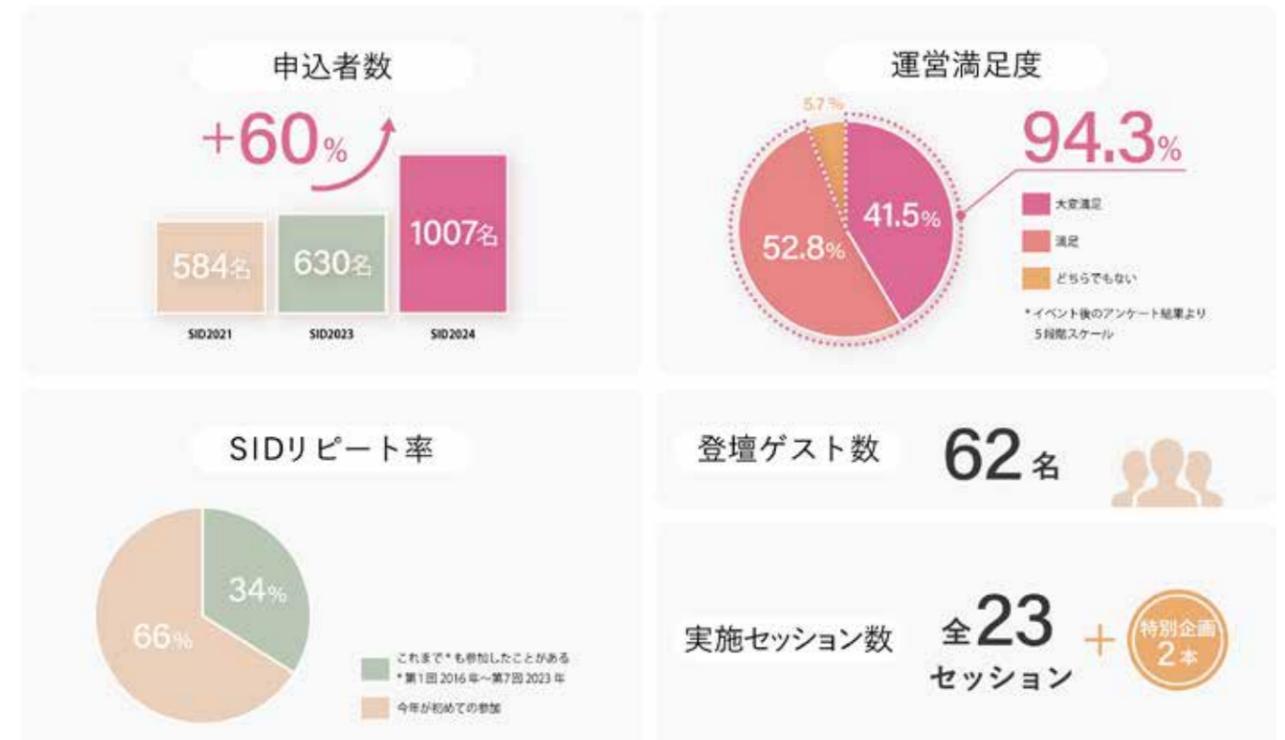
セッション⑨『「IMPACT SHIFT」を経て見えてきたもの～Z世代の4人がインパクトのこれからを考える』にて、インパクト投資やそれに取り組む関係者の姿が若い世代にどう見えているのか、どう伝わっているのかが知れて良かった。

社会的インパクト投資、ソーシャルビジネスに関する未来、システムチェンジ投資等を実践者からお伺いでき、大変勉強になりました！

事業会社で助成/インパクト投資に取り組んでおり、本会で事業に生きる情報収集をすることができ、感謝です！このような活動を是非継続していただけますと幸いです！

システムチェンジ投資に関して、重要なテーマだからこそ、これから学ぶ一般層にもわかるようにさらなる咀嚼と言語化を期待したい。

数字で見るSocial Impact Day2024



理事から見た本事業のポイント | 幸地正樹 | SIMI 理事

Social Impact Day 2024では、「システム・チェンジ」をテーマに掲げ、インパクト・エコノミーの実現に向けた議論を深めることができました。特に印象的だったのは、共助資本主義やチャイルドレンズ投資など、新たな価値評価の枠組みに関するセッションです。

これらの議論を通じて、私たちが目指すべき未来の姿がより鮮明になってきたように感じます。同時に、その実現に向けては、多様なステークホルダーの協働が不可欠であることも再確認されました。社会的インパクト・マネジメントの概念が広まり、実践が積み重ねられていく中で、今こそ「何のために、誰のために取り組むのか」という本質的な問いに立ち返り、私たちが一人ひとりが当事者意識を持って行動する必要があります。Social Impact Dayは、こうした多様な視点と知見が交差する場として、今後も進化を続けていきます。次回も、皆様とともに未来への扉を開く機会となることを楽しみにしています！

SIMI COMMENTS

2023年度のその他の活動

活動01 | 投資家ネットワーク

インパクト志向金融宣言

国内の金融機関がインパクト志向の投融資の実践を進めるイニシアチブである「インパクト志向金融宣言」には、賛同団体として参加し、運営に携わっています。2023年度は、代表理事の今田が、事務局会議を始め、分科会参加（S指標、地域金融、VC、融資債券）、IMM企画リード、書籍出版・執筆企画など幅広くサポートを実施。海外連携分科会と連携した、GIIN関係者の来日に合わせたイベントや、各種ウェビナー、セミナーを開催しました。



活動02 | 明治大学リバティアカデミー

明治大学リバティアカデミーと連携し、社会人向け講座「企業のサステナビリティ戦略と社会的インパクト」を開催しました。申込者数は全19名となり、全4回に渡って講義を行いました。



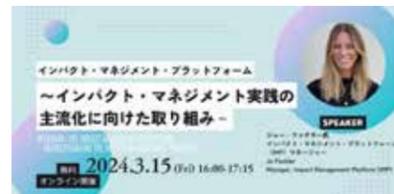
活動03 | イベント

SIMIでは社会的インパクト・マネジメントに関する様々なイベントを実施しています。2023年度も、入門者向けのセミナーや実践者向けのセミナーなど多様なテーマでイベントを開催しました。どのイベントも社会的インパクト・マネジメントの最前線で活動されている方をゲストにお迎えし、実践的な学びを得ることができる場となりました。

[開催イベント例]



上場株におけるインパクト投資の本質と企業価値
(協賛：株式会社かんぽ生命保険)



インパクト投資ウェビナー「インパクト・マネジメント・プラットフォーム～インパクト・マネジメント実践の主流化に向けた取り組み～」



インパクト投資ウェビナー「インパクト会計の基礎と最近の動き～VBAの手法を学ぶ」

活動04 | グローバルリソースセンター(GRC)

SIMIグローバルリソースセンターは、海外の主要リソースをピックアップして日本語でわかりやすく解説する、情報ポータルサイトです。社会的インパクト・マネジメントを取り巻く概念を、「社会的インパクト・マネジメント」「サステナブル・ファイナンス」「インパクト投資」「新しい資本主義」の4つのテーマに分類。各テーマの概要や、注目すべきサブテーマ、主要なプレイヤーを紹介し、その内容や重要性について解説しています。2023年度も注目すべき資料の翻訳を行いました。

[掲載資料例]



国連児童開発基金(UNICEF)によるチャイルド・レンズ投資の枠組み
Child-Lens Investing Framework

著者：UNICEF
発行年月：2023年9月



Asset AllocatorsのためのインパクトDue Diligence並びにImpact Management実務ガイド
Impact Due Diligence and Management for Asset Allocator

著者：BlueMark
発行年月：2023年11月

メンバーシップ制度のご案内

日本全体に「社会的インパクト・マネジメント」を普及させることを目指し、SIMIの理念に共感・賛同し、ともに活動を推進するメンバー(組織・個人)を募集しています。2024年6月現在、約370の組織・個人がメンバーに登録しています。

1. エンゲージド・メンバー (有償)

社会的インパクト・マネジメントに関心のある組織・個人でSIMIの事業や活動に共感・賛同することを表明し、活動を主体的に支えるメンバーです。

会費 (年間)

- ① 10万円：前事業年度の売上高もしくは収入額が1億円以上の組織(非営利・営利を問わず)
- ② 5万円：前事業年度の売上高もしくは収入額が1億円未満の組織(非営利・営利を問わず)
- ③ 1.2万円：個人
※SIMIの会計年度は7月～6月のため、会員更新は毎年6月末となります。

会員特典

- ① エンゲージド・メンバー限定のSIMに関する勉強会・交流会への参加権利
- ② Social Impact Dayの無料招待、SIMに関する研修、イベントなどの参加費の割引
- ③ SIMIのWebサイトやFacebook、ニュースレターにおける、SIMに関連するサービスやイベント情報、求人情報などの発信(組織会員のみのみ、年4回まで)
- ④ SIMIのWebサイトにおけるロゴまた組織名の掲載(組織会員のみのみ)

ご登録方法

ウェブサイト*3の登録申込ページよりフォームに必要事項をご入力の上、ご送信ください。内容を確認後、事務局より連絡いたします。ご不明な点がございましたら、事務局(info@simi.or.jp)までお問い合わせください。

理事が考えるメンバーシップ制度のポイント | 高木 麻美 | SIMI 理事



Social Impact Day 2024では、インパクト・エコノミーの広がりとともに、参加するステークホルダーの多様性がさらに増しました。投資家や金融機関、企業、自治体などの従来の関係者に加え、若い世代が主導する取り組みや、海外からの登壇者・参加者が増え、世代や業界を超えた広がりを感じさせました。また、初のハイブリッド開催や、「インパクト・フォーラム」、「SusHi Tech Tokyo 2024」との連携もさらに多くの参加者を引き付け、多様な視点での対話が活発に行われました。

SIMIのメンバーシップについても同様です。エンゲージド・メンバーや賛同メンバーには、業界や役職を問わず、若手からベテランまで幅広い層が参加しています。2024年にも、Social Impact Dayに参加した新たなメンバーを含め、社会課題解決やイノベーションの創出に強い意欲を持つメンバーが新たに参画しました。環境・社会課題に取り組むには、様々な人の経験や知恵を集結し、議論していくことが必要です。SIMIでは、今後も国内外の連携を深めながら、メンバー間の相互学習と協働の場を提供するだけでなく、知識共有を超えた実践的な対話につながる多様な場を設けていきます。ぜひご参加ください。

SIMI COMMENTS

詳細リンク *3: <https://simi.or.jp/about/member>

組織概要

名称	一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ (英文表記: Social Impact Management Initiative)	
設立	2020年10月	
登記住所	東京都渋谷区	
代表者	今田 克司	(株式会社ブルー・マーブル・ジャパン代表取締役)
評議員	青柳 光昌	一般財団法人社会変革推進財団専務理事
	有馬 充美	西武鉄道株式会社社外取締役、 株式会社プリンスホテル社外取締役
	太田 達男	公益財団法人公益法人協会会長
	澁澤 健	コモンズ投信株式会社取締役会長、 シブサワ・アンド・カンパニー株式会社代表取締役
	水口 剛 源 由理子	公立大学法人高崎経済大学学長 明治大学公共政策大学院ガバナンス研究科専任教授
監事	勝 伸幸	弁護士 長島・大野・常松法律事務所
	上原 丈弥	タイガーマブ株式会社CFO
理事	伊藤 健	特定非営利活動法人ソーシャルバリュー・ジャパン代表理事 (業務執行理事)
	今田 克司	株式会社ブルー・マーブル・ジャパン代表取締役 (代表理事)
	鴨崎 貴泰	特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会常務理事 (専務理事)
	幸地 正樹	ケイスリー株式会社代表取締役 (業務執行理事)
	高木 麻美	株式会社Stem for Leaves代表取締役 (業務執行理事)
Webサイト	https://simi.or.jp/	



理事からのメッセージ | 鴨崎 貴泰 | SIMI 業務執行理事

SIMIは「あらゆる組織の社会的インパクト・マネジメントを促進するとともに、組織や業界、活動分野を越えた参画・協働を加速する共創基盤を提供する」ことをミッションに掲げるマルチセクター・イニシアチブです。

したがって、私たちは常にSIMI単体でインパクトを生み出すのではなく、協働によるコレクティブ・インパクトの創出と生み出したインパクトの業界全体への貢献(波及効果)を考えながら事業運営を行っています。

来年度もインパクト志向での事業運営や業界、分野を超えた仕組みづくりなどに関心のある企業・団体の皆様に様々な機会からSIMIの活動へ参加いただければと思います。

SIMI COMMENTS

会計報告

正味財産増減計算書

I 一般正味財産増減の部

1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
経常収益計	47,919,348
(2) 経常費用	
事業費計	46,896,031
管理費計	3,761,657
経常費用計	50,657,688
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	
経常外収益	
前期損益修正益	300,000
(2) 経常外費用	
経常外費用	0
前期損益修正損	30
当期経常外増減額	299,970
税引前当期正味財産増減	▲ 2,438,370
法人税、住民税及び事業税	70,000
当期一般正味財産増減額	▲ 2,508,370
一般正味財産期首残高	13,111,639
一般正味財産期末残高	10,603,269

II 指定正味財産増減の部

一般正味財産への振替額	0
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	3,000,000
指定正味財産期末残高	3,000,000

III 正味財産期末残高

13,603,269

2023年7月1日から2024年6月30日まで (単位:円)

貸借対照表

I 資産の部

1. 流動資産	
普通預金	23,234,376
仕掛品	1,095,300
未収金	491,333
流動資産合計	24,821,009
資産合計	24,821,009

II 負債の部

1. 流動負債	
未払金	6,689,940
前受金	4,044,000
未払法人税等	70,000
未払消費税	413,800
預り金所得税	0
流動負債合計	11,217,740
負債合計	11,217,740

III 正味財産の部

1. 指定正味財産	3,000,000
2. 一般正味財産	10,603,269
正味財産合計	13,603,269
負債及び正味財産合計	24,821,009

